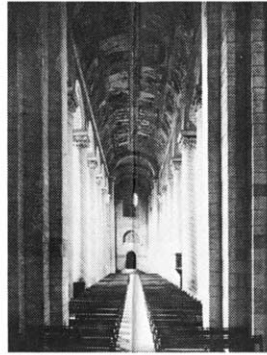


## 美術の窓(11)

サン・サヴァン教会のロマネスク  
壁画との邂逅(二)

大和文華館館長 吉川 逸 治



教会堂・身廊内部



壁画・女と龍

ポワティエの町は、クラン川とその支流が合流する三角形の岩山の台地の上であって、その西南部は地続きの高原地帯から一段と高い崖や古い城壁で距てられ、川の対岸を見下す眺めのよい公園に整備され、公園の末端は庭つきの屋敷街になって、県庁や市庁、美術館、カフェなど列ぶ中心広場に導かれます。丘の頂上部に当たる訳で、昔ジャン・ダークが駒を繋いだ旧王城やロマネスク彫刻で名高いノートルダム聖堂もそこからすぐです。北側に下る坂道の一つに、かつてラブレールやデカルトも学生のうちにいと誇るポワティエ大学の旧校舎、現在はその中世文化研究所があるフランス・ルネサンス様式の邸館があります。

町は東北の方向に低くなってゆくの、幾條かの坂道が緩やかに下りてゆきます。大通りと名付けられた由緒ある坂道も、ごつごつした舗石を敷いた狭い道で、その下りきったところにゴシック様式のポワティエのカテドラルが建って、静かな界限の中心になっています。この大聖堂の南脇の扉口から路次伝いに洗礼堂に行かれますが、この様な町はづれに司教座大聖堂と洗礼堂を建てた古代ローマ都市の普通の姿が、ここにも跡づけられます。大聖堂は十二世紀後半に起工されたブランタジュネ様

式の初期ゴシック建築で、南仏のドーム方式と北仏の交叉筋骨アーチの方式を融合した独特な構造で、極立って明確な形態、ここでは特にアリエノール妃とブランタジュネットのヘンリー2世が寄進したとされる奥陣の大窓のキリストの磔刑図を中心としたステンドグラスが素晴らしく、その美は他に比肩するものがない程です。洗礼堂の方も、外観にメロヴィング時代の特徴を残し、現存するフランスの古代キリスト教建築の最古の一例として知られ、前世紀の考古学者が内部のまんなかに古代の洗礼槽を発掘、復原し、また周りに古代建築遺跡を掘出しています。洗礼堂は十一世紀に改装され、その頃の壁画の貴重な遺例、皇帝騎馬像やキリスト昇天図などデッサンの優れた壁画を見物できます。この附近に古代都市の跡を近年発掘して、そのまま屋蓋を架して博物館に造っていますし、メロヴィング王妃で修道女になって活動した聖女ラドゴンドのいた尼僧院跡も跡づけることが出来ます。

下宿は、このカテドラルの界限にありまして、人影のない坂路に面したところで、裕福な老婦人二人と育ちのよいセルビアの学生一人のところに、休暇中だけ、私に加わったので、物静かな中年の婦人が世話する世間離れた環境で

した。朝のうちは読書、午後は見学、見物、時に法学生ヨバノピッチ君と水泳やオートバイのドライブなどで、ポワティエ市内の見物を済ませると、滞在中半ば過ぎ、急に気ぜはしくなって、ポワティエの周辺の教会堂見物のプランを立てて実行に移ります。

その第一が以前から準備していた五十キロメートル程離れたサン・サヴァンを訪ねること、一日朝から出掛けて、途中、民芸調の彫刻が面白いというショヴィニの教会堂に立寄って、昼ごろ目ざすサン・サヴァンに着きました。淋しい、村とってよい様な町で、一軒小さなオテル・ド・フランスと看板を書いた旅人宿があって、ここで焼肉にコップ酒の昼食を済ませ、路次伝いにすぐ教会堂のある大きな広場に出ました。眼前に聳立する会堂正面の塔の入口は扉に鍵がかかって開きません。途方にくれていると、居酒屋のおかみさんが広場に面した司教館へゆけど、訪ねますと、親切そうな老司祭が戸口に出てきて、昼食中らしくナブキンを手にしたまま、今日は都合が悪く、鍵をこの先の靴やの老人から借りて、入って見てくれ。ただ、入ったら入口の扉を鍵で閉ることを忘れずにと。言う通りにし、大きな鉄鍵で塔の入口の扉を押しひらくと、光が射

し込んで、ヴォールト天井の表面や本堂に入る戸口の上の半円形の壁画に淡い土色のさまざまな色調がそっと浮び出て、遠い忘却の過去から、やっと現れたという感じで、見ている間に様々の形像が定まり、両手をひらいた大きなキリスト、周囲の天使たち、坐る聖人たち。傍の天井では、勢いよい馬に跨った天使が龍の首に槍をむける。或は、坐る女に大きな龍が口をあけて、躍りかかる(写真)。場面の面白さ、デッサンのデリケートさ。

次に本堂に入りますが、ここは両側の側廊の高窓から射し入る夏日の光で明るい。太い高い円柱が二列に列んで高いヴォールト天井を仰ぎ見させ、奥の内陣まで見通される大空間の光景に打たれました。その天井に天地創造からノアの方舟、バベルの塔など旧約聖書の場面が、単純で力強い人々の姿で描き出されているのに見とれました。この最初の訪問で、ロマネスク壁画に対する興味が湧いて、この地方からツール、アンジェの諸地方まで探しまわったのでした。そして、二年後、フォション先生にサン・サヴァンの壁画に就いて、入口玄関の黙示録画をテーマとする研究でドクトル論文を準備する承認をいただきました。(つづく)

季刊 美のたより No.67

昭和59年 5月 17日

発行 大和文華館